

## 51 吊辞 (山田一郎)

〔『法学新報』第三九号 明治二十七年六月二十八日〕

## ○吊辞

嗚呼我岡山兼吉君逝キヌ我レ復タ誰レト共ニカ満胸ノ懷抱ヲ披  
 キ誰レト共ニカ終天ノ慷慨ヲ語ルヘキノ余ノ君ト相交ル茲ニ既  
 ニ二十年学フヤ其机ヲ同フシ游フヤ其袂ヲ聯ネ事ヲ社会ニ執ル  
 ニ当リテハ我カ立身起業地タル西河岸ノ楼上ニ起臥ヲ共ニシタ  
 ルコト四周年ニ及ヘリ君ノ性ヤ温厚余ノ性ヤ狷介君ノ事ニ臨ム  
 ヤ摯実余ノ身ヲ処スルヤ奇矯降テ飲食遊戯ノ末ニ至ルマテ其好  
 尚ヲ同フセルヲナシ然リ而シテ其交リヤ曾テ変スルヲアラサル  
 ナリ蓋シ君居常余ニ謂テ曰ク死生ノ大節ニ臨ンテ惑ハサルノ一  
 事ハ我等ノ相同フスル所以ナリト是レ此一事固ト交リテ終生ニ

鞏フスルニ足ル而カモ談スル事豈ニ容易ナランヤ君ノ明治二十  
 一年二十二年ニ於テ肺患ニ罹ルヤ人ヲシテ早ク既ニ黄泉ノ客タ  
 ルヲ憂ヘシム時ニ余君ニ会シテ永訣ノ辞ヲ求ム君ノ曰ク死生ノ  
 機會テ決セリ我レ何ソ拘々タル所アランヤ汝々トシテ人ノ為メ  
 ニ冤ヲ雪キ汲々トシテ世ノ為メニ教ヲ施ク我カ力ノ及フ所ヲ尽  
 クシテ敢テ或ハ天ニ恐ル、所ナシ其寿夭ハ是レ命ナルノミト余  
 手ヲ拍テ善哉ト喚フ堅ク約シテ曰ク好シ君回春ノ期ニ遇フコト  
 アルモ断シテ国家ノ繁劇ニ当ルヲ勿レト越ヘテ明治帝國議會ノ  
 開設ニ際ス君奮然起テ衆議院議員ノ候補ニ任ス余其約ニ違フヲ  
 詰リ反覆數回遂ニ要領ヲ得ルヲナクシテ止ム思フニ君カ一身死  
 生ノ機ハ夙トニ悟了セルモノアリト雖トモ君カ国家報効ノ心ハ  
 長ヘニ鎖尽スルコトアルナシ事ニ触レテハ慷慨ノ氣其心頭ヲ压  
 シテ悟道ノ機ヲ誤ラシム君カ晩年ノ境遇ハ此ノ心神上ノ撞着ニ  
 忙ハシク遂ニ彼ノ病余ノ体軀ヲシテ其勞ニ堪ヘサラシムルニ至  
 レリ嗚呼亦タ哀シカラス哉而シテ余ハ君カ永訣ノ辞ヲ聴クノ五  
 年前ニ在リテ之ヲ今日ニ再タヒスルヲ得サリシヲ憾ム杜鵬綠陰  
 ニ啼テ月西山ニ微ニ梅雨客窓ヲ繞リテ雲天際ニ愁フ君ヲシテ其  
 悟了セルカ如クニシテ尚ホ惑ハサルヲ得サルノ無限ノ感懷ヲ叫  
 破セシメハ其耳ヲ疾マシ心ヲ傷マシムル者果シテ社会ノ如何ナ  
 ル辺ニ在ルヤ亦未タ知ルベカラザルナリ辱知山田一郎疾ニ嶺南  
 ノ客舎ニ臥シ会葬ノ典ニ与ルヲ得ス一片ノ蕪詞空シク九泉ニ  
 薦ムルアルノミ嗚呼哀哉尚饗

写於静岡県遠江国掛川病院内

明治二十七年六月十七日

山田一郎